

■大久保長安 代官頭。天才の技術官僚で、財政・鉱山はじめ殆どの権限を掌握したが、死後、功績を抹殺された。

おおくぼながやす

.....1545=

おそらく、世阿弥はじめ秦氏末裔の能楽師らの故地大和盆地南部で、金春流の猿楽師大蔵大夫の次男に生まれる。幼名藤十郎、後に十兵衛。

ザビエル来日1549= 4歳 :

.....1554= 9歳 :

大村純忠受洗1563=18歳 :

川中島の戦終1564=19歳 : この頃、武田信玄に招かれた父に伴われて甲斐国に下向。

織田信長入京1568=23歳 :

やがて、武田信玄に認められ、譜代家老土屋直村から土屋姓を授けられ、士分になり、

家業は相続せず、_蔵前衆として民政に携わり、貢税や司法、鉱山開発に従事。

三方原の戦・1572=27歳 :

室町幕府滅亡1573=28歳 :

長篠の戦・1575=30歳 : この年、長篠の戦いで兄が戦死。

_治山治水、築堤、普請、作事はもちろん、検地、収税、農民教育、新田開発、さらには、鉱山発掘、金銀精練、兵站指揮、外交など、あらゆる技術の腕を磨き、甲州第一の巧者と謳われるまでになり、

パリヤーノ謁見 1581=36歳 :

本能寺の変・1582=37歳 : *武田氏滅亡、続く織田信長の暗殺後、徳川家の家臣に取り立てられる。その理由についても、諸説ある。

_譜代の重臣大久保忠隣の庇護を受けて、大久保姓を授けられ、甲斐の民政を担当、

本願寺の顕如に仕える名門池田頼龍の娘を娶るなど、政略結婚などで自らの地位を確固たるものにし、

.....1589=44歳 : 徳川氏の五カ国領国の改革では国奉行並に抜擢され、

秀吉全国統一1590=45歳 : *関東入国後、さらに抜擢されて代官頭となり、

_伊奈忠次らとともに関東領国支配の中心となり、甲斐への要衝として重要な八王子の小門陣屋を拠点として、配下の八王子千人同心を指揮、財政、交通、産業など、幕府創業期の地方支配に活躍。実施した検地は幕府財政に寄与して、石見検地・大久保縄と称され、伊奈氏の備前検地と並ぶ代表的な仕法となる。

前田利家没・1599=54歳 :

関ヶ原の戦・1600=55歳 : *関ヶ原の戦いでは、秀忠に従軍して木曾谷で戦功。以後、支配領域が拡大し、関東、信濃、甲斐、美濃、駿河、大和、石見、越後、佐渡、伊豆に及び、一説には120万石を支配したという。各地の出先機関の代官、手代、地役人は多数に及び、

朱印船制始・1601=56歳 :

東本願寺創建1602=57歳 : 石見銀山奉行になると、大久保舗(大坑道)、釜屋間歩(坑道)により大増産、

阿国歌舞伎始1603=58歳 :

糸割符法始・1604=59歳 :

百姓一揆により、佐渡代官の四人が処分されると、幕府開設直後、従五位下石見守に叙任、_佐渡の代官になるとともに、幕府奉行衆(老職)に加えられ、一里塚の築造し、東海道・中山道の宿駅制の確立に尽力。佐渡に渡海、遊女や猿楽師を含む多数の者を従えた豪華な道中で、各宿駅で乱舞酒宴の有様だったという。

江戸城完成・1606=61歳 :

伊豆金山奉行。翌年にかけての江戸城拡張工事の際に、八王子石灰の運搬。後に名古屋城天守閣造営では作事奉行、駿府築城にも参画、土木・築城にも長けていた。石見、佐渡、伊豆の金山、銀山の開発の驚異的成果により、幕閣の中枢に位置し、

家康駿府退隠1607=62歳 :

.....1608=63歳 :

家康側近として駿府政治の一翼を担い、駿府、江戸などから頻繁に指示を与え、全支配領域を掌握。

駿府天守閣造営の際、黄金三〇万枚を差し出す。再び、佐渡に渡海。

_みずから頻繁に各地を巡視し直接指揮をとる一方、駿府、江戸その他から書状によって指示を与え、関東の八王子・青梅・桐生の町や石見・佐渡の鉱山町の建設、東海道・中山道宿駅制度の確立と一里塚、脇往還の整備、江戸・駿府・名古屋の築城など、治水・鉱山・築城の技術に卓越した手腕を発揮し、初期江戸幕府の財政基盤を確立した。天下惣代官と呼ばれ、豪華な生活を送っていたが、

山田長政渡航1611=66歳 :

キリシ教禁止・1612=67歳 :

支倉常長渡欧1613=68歳 :

カピタン・モロ事件。ドイツ人ケンペルの『日本誌』に幕府転覆計画。

*中風で病床に就き、家康から高価な漢方薬“烏犀円”を見舞いに送られるも、

悪化し駿府で没した。

死後数日して、突如として生前の金銀隠匿、幕府転覆の陰謀露見を理由に遺子七名が死罪に処せられ、多額の蓄財もすべて没収、一族、縁故者の多くが処罰され、大名や代官で連座し失脚した者もいたが、その真相は不明である。

川上隆志「大久保長安の謎」、「人づくり風土記(山梨)(島根)」、「日本史を変えた人物200人」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、平凡社百科事典、「江戸・東京を造った人々」、